



開通式典では、塩田康一県知事の式辞をはじめ、岩切秀雄市長ら関係者のあいさつの後、観光大使の塩田浩一さん、ドラクドドラゴン塚地武雅さんや島民の皆さまから寄せられたビデオメッセージが放映されました。

開通セレモニーで、親子三代渡り初めに参加した下甕町の江口健三郎さん、和子さん夫妻は、「ただ、うれしい。これからお互いへの行き来も盛んになると思う」と話し、その子どもでもある照明さん、玉美さん夫妻は、「島内間の交流が盛んになることは間違いない。終わりではなく、ここからがスタート。気を引き締めてがんばらないといけない」と話してくれました。

そして、その孫である川路明さん、雄太さん夫妻は、「小さい時には考えもしなかった。いろんな所に行つて子どもと楽しみたい」と橋の完成を喜びました。

また、8月23日(日)には、「壱大橋開通記念プレイベント」が開催されました。

イベントでは、甕島で活躍する彫刻家、純浦彩さんが、ウミネコと甕島の地形をモチーフに制作した親柱のミニメントが初披露され、約500人の島民がウォーキング大会で渡り初めを楽しみました。

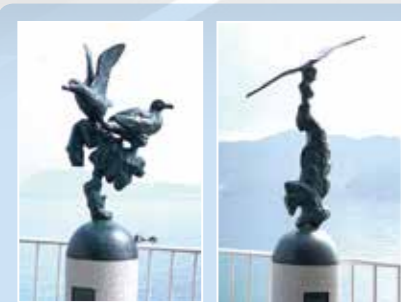


歓喜に沸く 壱島列島

壱大橋の完成により、壱島の観光振興は加速し、島内間の交流も盛んになることが期待され、住民の生活にもさまざまな変化が想定されます。

8月29日(土)は、「壱大橋開通式典」が開催され、オープニングセレモニーでは、下甕島側の伝統芸能として「鹿島太鼓」が上・中甕島側から、中甕島に唯一存在する集落である上甕町平良の「大敷ばやし」が披露されました。

鹿島太鼓を指導する橋野恵子さんは、「時間をかけて作った橋がついに完成した。この橋が架かっている蘭牟田瀬戸は波の高い所で、その状況から『瀬戸のうず潮』という曲ができた。その曲をこんな機会にここで披露できるなんて、こんな喜ばしいことはない」と話されました。



◀壱大橋の両端を飾るミニメントは、羽を休めるウミネコと上・中甕島がモチーフ(写真左)と滑空するウミネコと下甕島がモチーフ(写真右)の2種類



▲8月23日 プレイベント ウォーキング大会



◀壱大橋を挟んだ30隻の船団パレード。島中の船が大漁旗をなびかせ一斉に走るさまは、圧巻の一言！

